

## 河内貯水池で水神祭挙行

### 豊水祈願と水に携わる人たちの安全祈願

主催：新日本製鐵(株)八幡製鐵所



河内貯水池の堤防上にてお払い

新日本製鐵(株)八幡製鐵所では、さる5月24日11時から、北九州市八幡東区の河内貯水池堰堤横で佐藤新日本製鐵(株)八幡製鐵所設備部長、松村新日本製鐵(株)八幡製鐵所設備部部長ほか直(八幡製鐵所)・協(協力会社)あわせて関係者約80人が出席して水神祭を挙行了した。

同祭事は、例年梅雨入りを前に河内貯水池の豊水祈願と水に係わる人たちの安全祈願のために行われているもので、当初は、河内貯水池、養福寺貯水池、遠賀川、紫川の各水源地で同所水道掛内行事として開催されていた。しかし、昭和57年からは河内貯水池に一本化され、現

在ではエネルギー部門の行事として行われるようになったものである。

なお、「河内貯水池の回りに約10mmの降水量があったならば、貯水量が約50,000トン増加する」と言われている。



大正12(1923)年3月の工事中の写真

(写真:八幡製鐵所所蔵)

河内貯水池：大正4年沼田尚得八幡製鐵所土木課長が設計、同8年5月基礎工事着手、昭和2年3月、切石積、野面積、割石積、自然石積の堅牢で造形美である貯水池が竣工・正式貯水開始。貯水池概要：使役人員延90万人、湖の周囲6.4km、堰堤の高さ地上44m、貯水量700万 $m^3$ 。また、大正13年3月には河内小学校校舎が落成、同貯水池建設により急激な人口増加のため請願巡査2名を駐在させたほどで、これが、河内駐在所の始まりでもある。また、土木課長であった沼田氏は、土地を提供してくれた八幡村の人たちの為にも「できる限り美しく皆に愛される貯水池を造りたかった」との思いは、現在の社員にも連綿と受け継がれ今は、市民の憩いの場にもなっており、このたび北九州市が発行した「産業観光ガイドブック」にも掲載されている。

(参考資料：河内校史・産業観光ガイドブックおよび八幡製鐵所の百年より)